

令和5年度 京都府総合防災訓練参加報告

(令和5年9月3日(日) 於:保津川水辺公園)

一般社団法人 関西地質調査業協会 京都支部

京都府と関西地質調査業協会との間で平成25年に「大規模災害発生時における緊急対応に関する協定」を締結して以来、毎年開催されている京都府総合防災訓練に今年も参加致しました。本年度の訓練は地震及び水害の複合災害の発生を想定したもので、防災関係機関相互の連携強化と府民の防災意識の高揚を図って被害の減少につなげることを目的とした訓練でした。今年も9月3日(日)に保津川水辺公園を訓練会場として開催され、我々協会関係は技術委員のみなさまと全支部会員が防災展示に参加致しました。

防災展示会場に訪れた府民の皆様は、日頃から災害やその備えに対し興味を持っておられる方が多く、展示パネルの前では、自宅周辺の地質環境を確認され、熱心に協会員の説明を聞き入っておられました。今年もこの会場には、液状化の実験装置と補強土壁工法の仕組みを一般の方々にもわかりやすく説明できる実験装置を展示致しました。

液状化実験装置の前では、実験水槽中に設置した建物や自働車の模型を食い入るように見つめ、地震を想定した振動により水槽内の砂が徐々に液状化する様子を興味深く観察されていました。なかでもマンフォールや埋設管が、地盤の液状化によって地上に浮き出る様子が予め砂の中に埋め込んだパイプで再現されていることに感心されていました。

また、補強土壁工法の実験装置は、透明の亚克力板を組み立てたケースにプラスチックピースを詰め、一定間隔でストリップの役割を果たす帯板を埋め込んだ実験装置を展示しました。実験装置の前で園児や小中学生が列をなし、参加者のひとりが帯板を一枚ずつ静かに抜き取って、帯板の枚数が減るに従って絶えきれなくなった亚克力板が大きな音を立てて崩れ落ちる体験をしてもらいました。身近に目にする土木構造物の仕組みや役割を一般の方々に簡単な遊びの中から学んでいただける機会を設けることができました。この日の防災展示の会場は、一般の方々に災害に対する備えだけでなく、社会インフラを支える土木技術にも興味をもっていただく絶好の機会を設けることができました。

本年度の防災訓練参加にあたり協会技術委員並びに京都支部役員の皆様のご協力を賜り、大盛況に催しを終える事が出来ましたことをこの場を借りてお礼を申し上げます。



Ph-1 ヘリコプターにて西脇知事訓練会場に到着



Ph-2 来賓テント内の小宮理事長、大久保防災委員長
(テント内黄色ビブス着用)



Ph-3 西脇知事防災展示会場視察
(展示パネル紹介)



Ph-4 西脇知事防災展示会場視察
(補強土壁工法実験装置説明)



Ph-5 地盤の液状化パネル説明



Ph-6 液状化実験を見入る来場者



Ph-7 補強土壁工法パネル説明



Ph-8 補強土壁崩壊実験に参加する来場者



Ph-9 大久保防災委員長挨拶



Ph-10 参加者集合写真